

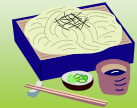
ぶら まち

～協働のまちづくり事例集～



平成25年3月

『いいじま手打ち蕎麦の会』



わたしゃ、あなたのそば(蕎麦)がいい

長野県を歩くと、どこでも「信州そば」の看板を目にしますが、その蕎麦の多くは飯島町産の種であることは意外と知られていません。

そんな隠れた(?)蕎麦の産地である飯島町で、手打ち蕎麦の普及と蕎麦仲間づくりに力を入れているのが「いいじま手打ち蕎麦の会」の皆さんです。

会長を務める熊谷功さん(石曾根)は飯島町を代表する蕎麦打ち名人で、会の講習会では先生を務めます。『会員は“蕎麦打ちの腕を磨きたい人”もいれば“食べるのが楽しみで来る人”まで様々ですが、皆さん協力的で楽しいですよ』とおっしゃいます。最近では講習会に参加した方が、先生となって各地区や家庭で蕎麦打ちを広めてくれるので、熊谷さんも楽になってきたそうです。



鳥羽市で手打ち蕎麦を披露する様子

課題、今後の展望など

現在、町内各地区に支部があり、それぞれで講習会等を開いています。会員にならなくても体験等できるので女性や若い方の参加を期待します。

また、組織の充実を図り、大勢の方が参加しやすい会の体制にしていくことが課題です。

蕎麦打ちは本気でやれば、3回くらいの講習で

打てるようになります(あくまでも本気で、予習復習ができる場合)。また、趣味としていつまでも続けることができますし、段位の取得で更に上を目指すことも可能です。

そば粉は町内でも買うことができますので、仲間内で蕎麦を打ってみたい人、家族にその腕前を披露してびっくりさせたい人は会員になってみませんか?蕎麦打ち道具の貸し出しも行っていますので初心者の方の皆さんもすぐに始められますよ!



ここが肝心!協働のポイント!

- ☆初心者歓迎
- ☆趣味、仲間づくりの場所
- ☆町の特産品PR
- ☆地産地消の推進

団体プロフィール	
団体名	いいじま手打ち蕎麦の会
会員数	71名(H25.2現在)
活動内容	・蕎麦打ち講習会 ・イベント等への出店 ・蕎麦打ち道具の貸し出し
問合せ先	会長 熊谷功(石曾根)

『飯島・中川 薪ストーブの会』



田舎暮らしの憧れの象徴“薪ストーブ”

飯島町、中川村の里山の整備を兼ねて、間伐材や支障木を薪ストーブの燃料に変える活動をしているのが「飯島・中川 薪ストーブの会」です。元々は飯島町内の活動を中心としていましたが、平成24年11月の総会で中川村まで範囲を広げ、組織名も変更しました。

薪ストーブは環境にも優しく、遠赤外線効果で身体の芯まで温まります。そんなストーブの薪を、安く手に入れたい人と山の手入れに困っている人との利害関係が一致してこの会の活動は成り立っています。しかし、ここに集まる人たちは薪の調達だけでなく、積極的に里山の整備に関わっていきます。



芯まで暖か、薪ストーブ！

課題、今後の展望など

信頼関係の構築が重要だと考えています。人の所有する山を整備するわけなので、依頼をしてもらえるように丁寧な仕事をする必要があります。

また、「薪をもらってくるだけではなく、活動を通じて地域に溶け込むステップになっている。」こう話をしてくれたのは、6年前に大阪から飯島町に移住された澤井忠雄さん(荒田)です。

この会のメンバーの半数は県外から移住されてきた方で、元々飯島町にいる人との交流の場所にもなっています。利益を求めるのは難しいですが、循環型燃料の利用や環境美化に関心のある人がメンバーが増えてくるといいですね。

この会に限らず、新しく入会するには勇気が必要です。ネットや会員同士の口コミなど入会のきっかけづくりもしていきたいと思います。

ここが肝心！協働のポイント！

- ☆初心者歓迎
- ☆割安で薪の調達
- ☆自然環境の保全
- ☆安心、安全な里山整備
- ☆飯島の暮らしに溶け込むきっかけづくり

団体プロフィール	
団体名	飯島・中川薪ストーブの会
会員数	22名 (H24.11 現在) 飯島町、中川村の30～70歳代まで幅広い皆さんが活動中。 会費はなし。 できる範囲での作業でOK。
活動内容	山の所有者から依頼があれば飯島町、中川村の里山の支障木を、ストーブの薪にして持ち帰る。 今後は、チェーンソーの使い方など、安全に作業できるように講習会も計画していく予定。
問合せ先	事務局 折山誠 (新田)



『南駒里山クラブ』

里山の魅力を再発見！

「飯島町の身近には素晴らしい里山があるのに、その魅力を知らないなんてもったいない。」南駒里山クラブ代表の堀越寛満さん（岩間）はおっしゃいます。同クラブを発足したきっかけは飯島町の西側にそびえる^{からかさやま}傘山に地域の人たちと登り、その眺望の素晴らしさに感動したからでした。

「私たちが小学生の頃は学校行事で陣馬形へ登り、何十年経った今でもその記憶が蘇る。」現在、車で簡単に登れる陣馬形ですが、歩いて登っても半日程度、皆でお喋りをし、汗を流しながら登るとその達成感は雲泥の違いだそうです。

同クラブでは、年5回程のハイキングなどみんなが楽しめる行事を計画し、その前準備で下草刈りやゴミ拾いなどを役員さんが行います。事業を行う上での大変なことは、楽しみながらできているので特に感じる事がなく、里山を通じた仲間づくりがすすんで嬉しいそうです。



活動の成果をまとめます！

課題、今後の展望など

山登りを楽しむことで、心身ともに健康につながります。今後は大勢の子どもたちに里山の魅力を感じてもらうためにも、若い世代の参加も期待しています。

また、今後は町内の団体と協力して、ハイキン

グコースに案内板を設置したり、山の上から飯島町の歴史を学ぶ学習会などを行っていきます。



陣馬形頂上から飯島町を臨む！

ここが肝心！協働のポイント！

- ☆初心者歓迎
- ☆心身ともに健康な身体づくり
- ☆安心、安全な里山整備
- ☆飯島町の魅力発見
- ☆郷土の歴史を学べる

団体プロフィール	
団体名	南駒里山クラブ
発足	平成24年3月発足
会員数	会員数52人（H24.10現在） 入会金なし、年会費1,000円、行事毎の参加費 町内外どなたでも入会できます。
活動内容	里山環境の整備（里山道の整備、下草刈り） 里山行楽行事の実施（トレッキング、ハイキングなど） 環境保全活動 学習会
問合せ先	堀越寛満（岩間）

『七姫會(ななひめかい)』



今、七久保の女性が熱い！

七久保地区では、宝くじの助成金を活用して昨年度購入したお御輿をきっかけとして、女性が主役となって地域を盛り上げる「七姫會」が発足しました。

「七姫會」とは名前の通り、七久保のお姫様たちのお御輿の担ぎ手の集まりです。今年に入り担ぎ手を募集、8月より週に1回練習を行い、10月6日の三社合同祭で揃いの法被で「サイ、サイ」（祭、祭）の掛け声のもと男性のお御輿に引けを取らない、勇壮な担ぎを初披露しました。その後の反省会で「七久保公民館の文化祭でも担ごう！」ということになり、11月4日に行われた秋晴れの文化祭で来場者の前を笑顔で元気よく担ぎました。七姫會で担ぐお御輿は、東京の三社祭のような江戸前の担ぎ方でコツがいきます。



三社合同祭でお披露目

課題、今後の展望など

今後はもっと担ぎに磨きをかけ、あちこちで披露をしたいとのことです。

会長の加藤主殿区長さんは、七姫會の頭文字を取って『AKB48ならぬ、N(七)H(姫)K(會)48として、48人を超える大勢の女性の皆さんに参加してほしい』とおっしゃっています。活動は始まったばかり、みんなでお御輿を持ち上

げて、地域を盛り上げましょう！



迫力十分！

ここが肝心！協働のポイント！

- ☆初心者歓迎
- ☆元気な力で地域力 UP
- ☆趣味、仲間づくりの場所

団体プロフィール	
団体名	七姫會 (ななひめかい)
会員数	平成24年8月結成 女性メンバー21人、男性5人(会長、世話役他)
活動内容	お御輿を通じて、七久保の元気と活性化を目指す。 「楽しく元気に」を合言葉に活動中。メンバーは随時募集中です！
問合せ先	宮澤由人(新屋敷)

『高遠原、新屋敷自治会作業』



ライバル関係？高遠原と新屋敷！

町の最南端に位置する2つの自治会の紹介です！

去る6月10日、お互いの作業内容を確認するかのごとく、川を挟んで隣り合う「高遠原自治会」と「新屋敷自治会」は早朝より住民総出の作業を行いました。

高遠原自治会は、日向沢川や県道の法面（のりめん）をビバーやチェーンソーを使って、危険も顧みずきれいにしていきます。その作業は手馴れたものです。その後、各隣組の花壇をみんなで飾りました。

一方の新屋敷自治会は、数百メートル続く、県道の秋の風物詩マリーゴールドの植栽を行い、その後集会所のペンキ塗りやビバーを使った草刈りを行いました。「自分たちでできることは自分たちで行い、町の経費の節約に結び付けたい」と新屋敷自治会では平成16年から毎年春、秋に全体作業を行っています。

一時、日向沢川の両岸を同時に作業している場面も見受けられました。



法面も軽々作業！

課題、今後の展望など

作業は自治会のみんなの理解と協力が不可欠ですが、作業を通じて自治会の連帯感が強まり自

治会活動に関心を持ってもらうことにつながっています。

実は仲良しの両自治会。良きライバルの存在は協働のまちづくりのエッセンスかもしれません。



みんなで植栽作業



手馴れた作業ですね！

ここが肝心！協働のポイント！

- ☆地域の連帯感の強化
- ☆みんなで創る飯島町
- ☆公共事業費の節約

団体プロフィール	
自治会	高遠原自治会
世帯数	309人 96世帯（外国籍世帯含む）
活動内容	自治会総合作業（54名参加）
自治会	新屋敷自治会
世帯数	317人 104世帯（外国籍世帯含む）
活動内容	自治会春全体作業（64名参加）



『株式会社 ティーアイシー』

エコ活動から始まる協働のまちづくり

去る6月5日、社長さんが率先して花壇に鍬を入れ、従業員の皆さんが楽しそうに植栽作業している様子取材させていただきましたが、この秋、見事な花壇ができたご連絡をいただいたので再度取材に行ってきました。TICでは、毎年、花壇の整備やグリーンカーテンの設置を行っており、今年も立派な花壇が完成し、地域の景観美化に貢献いただいております。



来客の方をお迎えします



社長さん自ら鍬入れ！



環境に優しい会社です！

課題、今後の展望など

なぜ、企業が率先してエコ活動を行うのか？答えは社長さんが花が好きだからということもありますが、環境省が進める「エコアクション21」という取り組みを会社挙げて行っているからです。エコアクション21のガイドラインに沿って総合的な環境への取り組みを進めることで、今回のような地域への貢献に加え、経営効率の改善、社会的信頼の獲得など数多くのメリットがあります。

エコ活動が企業の価値を高め、結果として協働のまちづくりに発展しているなんて素敵ですね！来年は町の花コンクールに参加してくれるそうです。

ここが肝心！協働のポイント！

- ☆地域の景観美化へ貢献
- ☆社会的信頼の獲得
- ☆グリーンカーテンなど緑化による経費節減

企業プロフィール

企業名	株式会社ティーアイシー
企業概要	平成元年11月設立、従業員25名 ハードディスク スピンドルモーター製作、部品加工など精密機械加工部品の製造・販売を通じて「自然との共存並びに地域社会貢献型の企業」を目指す当社は、地球環境調和と地域共存を企業活動の基本として活動いたします。 (ホームページより抜粋)